

学校法人広島国際学院 中期計画（令和2年度～令和6年度）

建学の精神

創立者である鶴虎太郎が実践した「経済的に困窮している若者のために奔走し、誘惑に負けた若者をどこまでも見捨てず、様々な形で教え子に支援の手を差し伸べる」崇高な精神に対して、創立者亡き後、創立者の意志を引き継いだ先人達が、彼の精神の本質を「教育は愛なり」と表現したことから、学校法人広島国際学院の建学の精神を「教育は愛なり」としている。

学校法人の経営課題としている 学生・生徒の確保、収支改善、人事方策、中長期計画、改組転換、組織統廃合等について、一步ずつ着実に解決しながら、本学院が未来永劫まで存続し、人類の平和と進歩に貢献するために、令和2年度～令和6年度までの5年間に於いて、取り組むべき重点目標を中期計画として次のとおり掲げます。

(1) 教育実践

- ・建学の精神を具現化した教育目標を踏まえて教育成果の確認と推進
- ・自己点検・評価による課題の抽出と対策の実施
- ・少子化や社会の変化を捉えた組織改編や教育システムの再構築

(2) 募集力の強化

- ・地域のトップランナーとしてブランドを確立
- ・強み・弱み、課題、環境分析を行って「魅力」の再発見
- ・広報戦略の再構築によって募集力の強化を図る

(3) 経営の安定化

- ・新事業展開の検討
- ・責任と権限の見直し
- ・経営の効率化と財政の健全化
- ・各学校との連携強化

(4) 組織強化

- ・事務組織の再編と人事制度改革
- ・職員の意識改革と資質の向上
- ・危機意識の共有と情報公開

以上